

7. 教育インターンシップ

3年次第3クォーターにおけるiOP（internship Off-campus Program）活動のためのプログラムとしてセンターが開設する「教育インターンシップ」は、開放制教職課程（教育学部以外）の学生が、茨城県内の高等学校を中心とする学校現場で5日間以上のインターンシップを行う活動である。開放制教職課程のカリキュラムでは、4年次における教育実習の他に学校現場を体験する機会は設定していないが、学校から要望・募集があった学校支援ボランティア活動に個人で応募・参加することに加えて、このプログラムに参加すると、教育実習以前の段階・時点において学校の教育活動の実際を直接見聞・体験する機会を得られる。

プログラム実施に関する年間の流れは以下の通りであった。

- ・6月12日（水） センター内予備打合せ
- ・6月18日（火） 茨城県高等学校校長会総務会にて、説明及び協力依頼
茨城県内高等学校・中等教育学校へ、協力依頼発送
- ・6月26日（水） 学生向け説明会、申込み受付開始
- ・7月10日（水） 学生申し込み期限
- ・7月11日（木）～ 申し込み内容・希望確認、学生派遣先検討、
派遣先学校との交渉、調整
- ・8月9日（金） 事前指導
- ・8月23日（金）～ 各学生による学校との体験日程調整
- ・9月初旬～11月 各学生、各学校にてインターンシップ活動実施
- ・1月22日（水） 事後指導（活動報告会）

本年度、当プログラムにて活動を行った学生は7名（人文社会科学部4名、理学部3名）であった。1校のみではなく複数校で1～3日程度ずつ実施した学生もあり、受入校は以下の8校であった。

《高等学校》

- ・水戸第三高等学校、緑岡高等学校、水戸南高等学校、水戸商業高等学校、
水戸農業高等学校

《中学校》

- ・水戸第一中学校、水戸市立第五中学校、水戸市立石川中学校

事前の協力依頼は高等学校・中等教育学校に出したが、中学校での活動を希望する学生に対しては、水戸市内の上記中学校に個別に依頼し協力の了承を得た。高等学校においては、昨年度同様に普通高校だけでなくいわゆる実業高等学校にも受け入れていただけたことは、学生がさまざまな学校現場の実態を知り、体験を通じて知見を深めていくうえで重要であった。

インターンシップ活動の実施中、学生は1日ごとに活動概要と当日の感想・反省等をレポートにまとめ、WEBシステムを通じてセンター宛に提出した。センター教員が内容を点検して活動状況を把握するとともに、必要に応じて助言等を行った。

1月22日（水）の事後指導では、各学生がインターンシップ活動の主な内容と活動を通して学んだこと等を報告、話し合いを行って、センター教員が講評のコメントを行った。

【学生の発表資料より】

03 先生方の生徒との関わり方

- ・ 自然体でいる
肩の力が抜けていて、先生自身がリラックスして生徒と接しているように見えた。
- ・ 指導とそれ以外の切り替えがはっきりしている
指導する際はかなり厳しい口調であった。切り替えがはっきりとすぎている、良くない行いにのみ指導を行っているのが良く分かった。
- ・ 生徒と関わる時間を積極的に増やしている
朝早くから教室にいる、昼休みも教室や廊下にいるなどとして、できるだけ生徒の近くで時間を過ごしていた。
- ・ 先生自身の年齢による違い
若い先生は親しみやすさ、年齢が上がると庄のようなものが自然とでてくる。年齢により生じる利点をうまく利用しながら接し方を工夫しているのではないかと感じた。

学んだこと・考えたこと
～教師の仕事について～

- ・ 導入の重要性
生徒の実態（学校、クラス）の観察
身近に感じさせる話題・媒体
→いかに生徒の価値観を払拭するか
- ・ ICTを効果的に使用するためには？
黒板を使った授業の有用性
- ・ 全ての業務の背後に生徒
万が一を防ぐことの徹底
→生徒・保護者の安心・信頼

成果①

- 定時制・通信制・実業高校の実態を知ることが出来た
➢ カリキュラムや学校生活の違い
- 学年全体・学校全体でのチーム支援の方法、実際に支援を行う姿を見ることが出来た
➢ 生徒との面談や教職員、相談員、SCIによる会議
- 自立活動や通級指導、キャンパスエイドなど、生徒の実態に合わせたサポートの方法を直接見聞きすることが出来た、補助に携わることが出来た
➢ 本来は特別支援学校に進学予定だった人も在籍していた

3. 活動を通しての成果・課題

課題

- ・ ICTに関する知識・活用法の理解
ICT活用の長所・短所の理解、教師自身も学び続ける
- ・ 「深い学び」の実現
反転学習の導入、フィードバックの実施
- ・ 生徒とのコミュニケーション
会話を大事にし、生徒との関わりを持つこと

さらに学生は、開放制教職課程の2年次学生を対象に実施した「教育実習ガイダンス」においても、後輩に向けてこれらの成果を発表した。今回は実施初年度ということもあり先に述べたように参加した人数は決して多くはなかったが、この発表を受けて、教育実習に向けての手続き・準備を開始する現2年次の学生たちの中から、次年度はさらに多くの学生がこの活動に参加し、教職への志向と意欲を高めてくれることを期待している。